


(1) 実践例一 (資料1)

「A. のりものあつまれ B. タッチボール」

友だちと協力することにより、力いっぱい運動する楽しさが味わえる授業

- ①授業のねらい A. のりものあつまれ (模倣運動)
- (1) 道路を走る乗り物の特徴を伝え、友達と協力して楽しく動くことができる
 - (2) 友達とぶつからないように気をつけて動いたり、友達の良い動きを見付けることができる。
- B. タッチボール (ボール投げあそび)
- (1) 作戦をたててチームで協力して、ゲームができる。
 - (2) 勝敗を素直に認めることができる。

②授業の過程

学習内容・活動	教師の働きかけと児童の反応
1. 乗り物ごっこ (1) 本時のめあてをつかむ。 本時のめあて 2人組で乗り物になりきって、いろいろな道路を走ろう。	T 最初に乗り物あつまれをやります。どんな道路を決めたかな? C: 黄色の線は高速道路。 C: むこうのほうは坂道。 
(2) 2人組で好きな乗り物になって動く。	T 今日では2人組で、乗り物を決めて走ってみましょう。 C: 最初にバイクをやらう。私が前ね。 C: 私は後ろの荷物をのせるところ。 C* ヘンション! 5、4、3、2、1、GO。
(3) グループに分かれて見せ合う。	T のりものあつまれ (集合) どこがよかった? C: えみ子ちゃんたちの坂道を登っているのがよかった。 C: 佑君たちのガソリンを入れているのがわかった。
2. タッチボール (1) 本時のめあてをつかむ。 本時のめあて 作戦をたててゲームをしよう。	T 次にタッチボールをします。 C: 今日の日作戦はどうですか。 C: 声を出し合うがいいです。 C: みんなにパスをする。 C: どちらにしますか。
(2) 作戦をたてて1回めのゲームをする。	ゴジラチームの作戦 C: 今日の日作戦はどうですか。 C: 声を出し合うがいいです。 C: みんなにパスをする。 C: どちらにしますか。
(3) 音楽の合図で2・3回めのゲームをする。	C: 協力してできた人? 力いっぱいできた人? (挙手)

研究仮説との関連

- ◎ 一人一人を生かし、あたたかい人間関係を育むことを配慮した授業の実践
- A. ① 2人で1つの乗り物になりきって動くことができる。
② 前時の反省を生かして作戦をたてたり、励まし合うことができる。
イ. 友達の良い動きを見てよいところを見付けることができる。

反省と考察

関連A-①

○ 2人で1つの乗り物になる。チェンジの合図で前・後ろと役割を交替したり、相手のやりたいという乗り物になった。
※ 役割の交替により、いろいろな動きを見付け合えたり、「今度は坂道」と、いろいろな道路に挑戦する姿が見られた。2人がくつきすぎ動きにくい場面があったので、少し離すべきであった。

関連イ

○ 友だちのよい動きを見付けて発表した。
※ 手足の細かい動きを見付けて発表し、そのまねをする姿が見られた。

関連A-②

○ チームごとに反省カードを利用しながら、全員で話し合った。
※ みんなにパスをするという作戦をたてると「○○ちゃんにもパスしろ。」という声が開かれる。作戦を意識して積極的に活動する姿が見られた。

関連イ


○ 今日の日作戦は「どうですか?」

(1) 実践例二 (資料2)

「ものの重さとてんびん」

一人学習による実験結果をグループで練り上げ、互いに励まし合い、認め合う授業

- ① 授業のねらい 不均一なてんびんにおもりをつり合わせる活動を通して、同じ重さのおもりを支点から等距離の位置につると水平になってつり合うことを調べることができる。
- ② 授業の過程

学習内容・活動	教師の働きかけと児童の反応
1. 本時の課題を伝えらる。 本時のめあて 太さのちがうてんびんを使って、つり合う時のきまりをみつけよう	T 今日はいくつのように太さの違うてんびんのつり合う時のきまりを見付けましょう。 
2. きまり (おもりの位置) を予想する。	T. どんなきまりが見付けられるでしょう。 C. 太さの同じてんびんと同じだろう。 C. 太さの同じ天秤とは、ちがうんじゃないかなあ。
3. 課題を解決する。 (1) 支点を見付ける。	T. コンパスを列して、上が水平になるような支点を見付けましょう。 C. 一発でみ付けたいよ。 C. なかなか見付けられないなあ。
(2) 同じ重さのおもりをつけて、つり合う時のおもりの位置を見付ける。	T. おもりをつけてつり合うようにするには、おもりをどこにつければよいかをさがしましょう。見付けた人は、短冊に書いて一覧表に貼りましょう。 C. 見付けたら、支点からの距離・端からの距離をはかりとり、一覧表に貼りつける。 C. お互いに情報交換をする。
4. 本時のまとめをする。 (1) グループで結果を話し合う。 (2) まとめたことを発表する。	T. グループ内で実験結果を発表し合い、きまりをまとめましょう。 C. グループの話し合いの結果を発表してください。 C. 支点からおもりをつけたところまでの長さは、左右とも同じです。 C. 端からおもりをつけたところまでの長さは、ちがっているようです。
(3) てんびんのつり合う時のきまりをまとめる。	てんびんに同じ重さのおもりをつけた時、支点から左右に同じ距離のところですり合う。

研究仮説との関連

- ◎ 一人一人を生かし、あたたかい人間関係を育むことを配慮した授業の実践
- A. グループ活動を生かし、一人一人の実験結果や考えを発表し合うことにより、お互いに考えを高め合うことができる。
イ. 一人学習することによって、活発に情報交換したり、あたたかく援助したりできる。

反省と考察

関連イ

○ 一人学習より、一人一人に実験の結果を持たせ、自由な情報交換ができる場を設けた。
また、なかなかできない友だちへの援助ができるようにさせた。
※ はやくできた児童は、自分の実験結果を持っているので、活発に友だちの所に行って確かめる姿や、まだできていない友だちの所に行って、いっしょに考えたり、操作したりする姿が多く見られた。

関連ア

○ グループ内で、お互いの実験結果を発表し合い、確かめたり、意見を促め合えるように、話し合いをさせる。
※ 一人一人が実験結果を持っているので、グループの中で生き生きと発表し合っていた。
また、結果の異なる友だちの実験をもう一度やって確かめ合う姿が見られた。